

※省略されている部分(助詞、助動詞など)は補う。

その子二十櫛にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな

問、a)とb)のどちらがいい？

a)

その子 (は) —— 二十 (だ) (。) / 初句切れ

櫛に——ながるる——黒髪の——おごりの——春の——うつくしきかな

b)

その子 (は) —— 二十 (だ) (。) / 初句切れ

櫛に——ながるる——黒髪の
おごりの —— 春の——うつくしきかな

c)

その子 (の) ——
二十 (の) ——
櫛に——ながるる——黒髪の —— おごりの——春の——うつくしきかな

たはむれに母を背負ひて
そのあまり軽きに泣きて
三步あゆまず

a)

たはむれに
母を —— 背負ひて ——
その ——
あまり —— 軽きに —— 泣きて —— 三步 —— あゆまず

b) ……三行詩だからあり得ない。

たはむれに ——
母を —— 背負ひて ——
その ——
あまり —— 軽きに —— 泣きて —— 三步 —— あゆまず

白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

問、なにが「かなし」なのか？

a)

白鳥は — かなしからずや (。) (二句切れ)

(白鳥は) —
 空の — 青 (や) —
 海の — あをにも — 染まず — ただよふ

b)

白鳥は — かなしからずや (。) (二句切れ)

空の — 青 (が) —
 海の — あをにも — 染まず — ただよふ

ひたぶるに我を見たまふみ顔より涎を垂らし給ふ尊さ

問、どちらがいい？

a)

(父が) —
 ひたぶるに —
 我を — 見たまふ — み顔より —
 涎を — 垂らし給ふ — 尊さ

b)

(父が) —
 ひたぶるに —
 我を — 見たまふ (。) (二句切れ) —

《信頼しきっている》

(父の) み顔より —
 涎を — 垂らし給ふ — 尊さ

《病氣と闘っている》

この心葬り果てんと秀の光る錐を畳に刺しにけるかも

問、a)とは別の解釈を試みよう。

a)

(私が) ————
 この心 (を) ———— 葬り果てんと (思っ) ————
 秀の光る ———— 錐を ————
 畳に ———— 刺しにけるかも

b)

この心 (が) ————
 (? を) 葬り果てんと (思っ) ————
 秀の光る ———— 錐を ————
 畳に ———— 刺しにけるかも

君かへす朝の舗石さくさくと雪よ林檎の香のごとくふれ

問、文節木を書いてみよう。

a)

(私が) ————
 君 (を) ———— かへす ———— 朝の ———— 舗石 (が) ———— さくさくと (音がする) (。)(三句切れ)
 雪よ ————
 林檎の ———— 香のごとく ———— ふれ

b)

君 (が) ———— かへす
 朝の ———— 舗石 (を) ———— (。)(二句切れ)

さくさくと ————
 雪よ ————
 林檎の ———— 香のごとく ———— ふれ